

A. 「増毛山道」の歴史と平成19年復元事業開始と活動経緯

1. 「増毛山道」の歴史と復元の動き

明治以前に蝦夷地の日本海沿線に、北方警備のため作られた道路で、現在、往時の原形を27kmに渡り、今もとどめているのは、増毛山道より他に遺された道はありません。

約160年間の歴史が山道に遺され、新旧駅逦・電信線遺構の電信柱・1等水準点17点他の様々の遺構や、松浦武四郎を初めとする、ここを歩いた人達の足跡遺産多々あります。

この道を復元しようとする活動は早くから個々に進められており、幕末の開削者である場所請負人「伊達林右衛門」の第14代直系「伊達東」や石狩市幌(ポロ)の住人渡邊千秋、増毛山岳会等でありました。

伊達東の呼びかけにより、これらが意気投合し、平成19年より「増毛山道の会」設立の動きが加速しました。

2. 復元着手時の状況と経過

明治から大正に至る地形図があるのみで、詳細な位置情報が不明なので平成19年11月に航空写真を撮影し、3次元情報を得、これをもとに現地で、藪中に人の歩いた痕跡を探索し、目印を付け、背丈を越すネマガリダケを刈る作業を続けました。

探索と笹刈が日進10mの時もありました。

そして遂に10年後の、平成28年10月に全線32kmの復元に成功しました。全区域が国定公園でしかも行政区をまたぎ、地主は国有財産、北海道、林野庁、増毛町、石狩市、個人等々であったので、山道の会自らが、隣接地への立入挨拶は勿論のこと、地積測量図作成、所有権移転等の作業にも係りました。

財務局管理の国有財産「道路敷地」については、未登録の国有地を表示登記し地番登録し、元の所有者である北海道に「錯誤」を登記原因として、所有権移転までの行程に総て携わり、約3ヶ月で一連の作業を完了することが出来ました。

新規や変更の作業については、昔も今も変わらず、各地権者に申請書を提出する事務手続は現在も続いています。

平成22年5月にNPO法人成立と共に、活動が円滑に行くよう、個人・企業の会費制度を募り、寄付、トレッキング収益、そしてボランティアで経済的に維持しています。

3. 観光資源や歴史教材としての活用

平成23年、別荘～岩尾間16km復元ルートで、一般公募ガイド付きトレッキングを開始し、7月～10月で4回実施し約100名が、歴史とロマンの道を楽しみました。

以後、ガイド付きトレッキングは、毎年、復元区間延伸に伴い、魅力ルートを選択し、回数増加し、年間最大8回まで実施しています。

トレック毎のアンケートから、お客さんの要望や経済効果を分析し、増毛山道トレの都度毎に改善実施、ガイド付きの大好評の声、宿泊先や季節毎の観光案内を発信してきました。

平成29年から、道内旅行者と協働し1泊2日の行程を組み、増毛町の果樹園や酒蔵ツアーも取り入れた、地元経済振興の取組も開始しています。

平成24年から、地元の増毛中学1年生全員を対象に、増毛山道の歴史や地理の出前授業と実際に山道の体験学習を行い、課題ごと班に分かれ発表会を開催してきました。

今年は、4班に分かれ増毛山道のパンフレット作製がテーマで、1. 景色と歴史がつまっている増毛山道 2. 増毛山道 自然の美術館 3. 増毛山道ヒストリー 4. 世界に一つの景色 の4種類が出来ました。これを増毛町内の売店において広報してくれました。当会の山道歴史冊子「増毛山道あれこれ」・ガイドマップと共にチラシ置場にあります。

また、3年前からは、国土地理院北海道地方測量部より講師を招き、最新の地理情報や地形学の授業にも取り組んでいます。

これが縁で、中学生や一般のトレッキング客に、国土地理院の携帯位置情報記録器GPSを登山ザックに付け、増毛山道の3次元情報を国土地理院に提供致しました。

平成29年2月に、国土地理院の電子地形図に、一旦抹消されていた増毛山道ルートが甦りました。

4. 山道の魅力を伝える広報活動

平成23年から、留萌市、増毛町、石狩市、札幌等でパネル展等も順次展開しました。

特に集客の多い札幌圏では、パネル展の講演会、チラシや資料配布を組み合わせ、札幌駅前地下歩道等で5回を越える広報を行ってきました。

道内版新聞や地元新聞等のメディアには、積極的に事業情報を公開し、増毛山道の事業活動を継続して発信頂きました。

5. 復元後の維持管理と整備

毎年融雪直後の6月末まで笹刈等の道普請を行い、トレ等の事業に支障のないよう32kmを整備しています。

ルートトレ中、上り下りで見えるよう番号標識を316枚、1等水準点全17点の内、発見済み10点の案内看板設置、武好駅通歴史案内大看板、幌・岩尾・別荘に山道ガイドマップ付き案内大看板の設置等を実施しました。

6. 全線復旧後の記念事業

全線復元を記念し、山道が石狩と増毛をつなぐ友好の懸け橋になることを願い、両地域の合流点で「カシワ」と「ナナカマド」の記念植樹祭を行いました。

雄冬山山頂までに登山道を付け、160年前に山道を開削した「伊達林エ門の座所」の標柱を山頂に建立し、彼の偉業をたたえと共に魅力ルートの創設につなげました。

B.助成金による増毛山道の再整備

「増毛山道の会」結成後10年余が経過し、理事達も世代交代期に差し掛かっております。一度刈り取った背丈3mの笹も伸びるので、毎年笹刈や倒木の処理等の維持管理を行っております。雄冬山直下の標高900m(約3km)の稜線は現場往復のみで4～5時間かかります。この区間を林野で作業している専門の方に依頼し、2m幅の山道を見通しの良いように再整備し、トレッキング参加者が快適に迷わず歩けるようになりました。

また、山道は数か所で林道と交差しており、もし林道に入ると遭難の恐れがあります。ここにも、方面別の文字案内標識を作成させていただきました。

全32kmという長大な奥深い山の道なので、ガイドマップや、案内番号標識、山道全体の大型案内看板等々整備してきました。

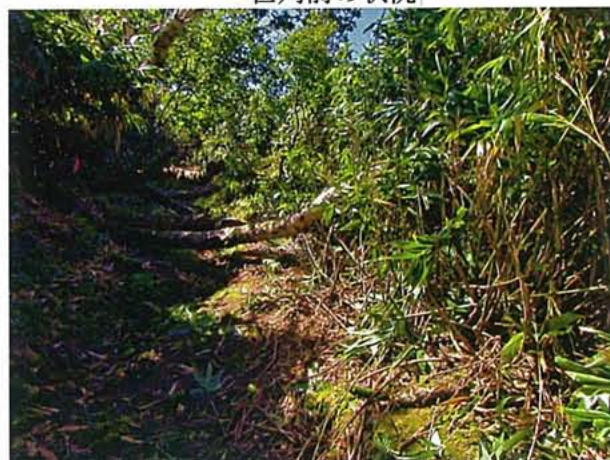
今回の助成を頂いて、安全安心な歴史トレッキングコースが再整備されたことに心より感謝申し上げます。



幌国有林側より増毛山道笹刈現場へ入林



笹刈前の状況



笹刈後の状況



笹刈作業中



笹刈作業中



刈った笹の片付け作業



笹を片付けた後の山道状況

案内看板設置写真



林道交点①- 1



林道交点①- 2



林道交点②- 1



林道交点②- 2



岩尾分岐温泉方向

Description